日本大学工学部

校友会報

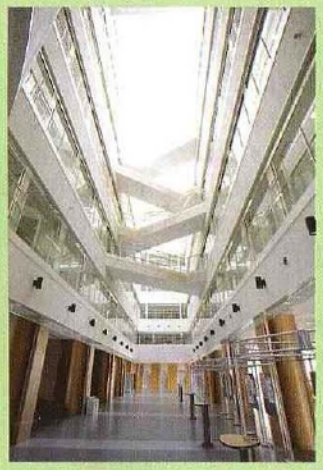
第70号
平成19年3月1日

新教室棟

■工学部校友会の主な支援事業■

工学部校友会は、日本大学校友会の納入会費（工学部在学生+工学部校友）の還付金で運営しています。そこで当校友会では、在学生と校友に対して、下記の支援事業を実行および立案しています。円滑な運営のために皆様の、会費納入をお願いします。

1. 工学部新教室棟（70号館）に寄付金
   総額2,000万円（昨年度500万円、今年度500万円を寄付）
2. 工学部へテント寄贈　10張
3. 困窮学生への授業料貸与制度（検討中）
4. 在学生と卒業生の就職活動支援
5. 北桜祭に開催される「母校をたずねる会」の実施
6. 工学部校友会の支部活動支援



INDEX

- ごあいさつ ……2
- 平成18年度第49回通常総会報告 ……3
- 「母校をたずねる会」第26回目を開催 ……4
- クラブＯＢ・OG会報告 ……10
- 支部活動報告 ……13
- 校友レポート ……17
- がんばり記 ……19
- 創立60周年記念事業資金の募集について ……20
- 寄付者名簿 ……21
- 校友短信 ……22
- 通常総会・母校をたずねる会の案内 ……24

ごあいさつ

日本大学工学部長
小野沢 元久

2007年の早春を迎えられ、校友の皆様におかれましては、ますますご清祥のこととお慶び申し上げますとともに、平素からの大学への御理解と御協力に対しましては厚く御礼申し上げます。

大学・短大の志願者数と入学者数が同じになる「大学全入時代」が来年度から始まり、大学間競争が更に熾烈化されます。高校生の半数が大学・短大へと進学し、望めば誰もが高等教育を受けられるという事態は日本の社会が獲得した一つの成果であるという見方もあります。

このところイジメや不登校、家族間の犯罪、未履修問題など日本の教育の荒廃は目に余るものがあり、特に未履修問題は大きな波紋を呼んだ出来事でした。

この騒動の背景には一流大学への進学を望む生徒や保護者、高等学校の過度の競争が見え隠れしております。受験対策を最優先し、学習指導要領を逸脱した未履修問題は、高校教育の原点とは何かをあらためて問いかけているのです。しかしこの問題は高校側だけをヤリ玉にあげて非難しても何等問題の解決策はでてきません。

高等教育の大学入試への偏重は、日本型学歴社会の仕組みにあるのです。いい仕事に就いたり、高い収入を得るうえで学歴が優先されるのは、先進国に共通する傾向で、特に日本の社会には根強く残っています。

ハーバード大学のダニエル・ヤンミンらは、このような日本の戦後教育を「パイプライン・システム」と表現しました。このシステムの下では、大学教育は職業能力を身に付ける必要はなく、企業の社内教育（On the job traning）が、それを補填していて、過言すれば、日本の大学は「パイプ」としての機能しかもっていなかったという指摘です。「入るは難しく、出るのは易しい」という評価は、その意味です。

これまでの教育を根本から見直すならば、教育には知育、徳育、体育があり、その性格の違いを明確に認識することです。知育の成果は知識の量で評価されます。したがって時間の関数であり、独学でも身に付くものであります。大切なのは徳育で、道徳的な判断力や実行力を養う教育、すなわち「やる気」を起こさせることです。

徳育は、必ずしも時間の関数ではなく、人との関わりの中で醸成されるものなので時間がかかり、それ故に、徳育は時として知育を進める上で弊害になると言うことで軽んじられることがあります。これが未履修問題です。

ドイツの児童文学者ミヒャエル・エンデの著作に「モモ」という作品があり「時間貯蓄銀行」の話が興味深い。エンデはその中で時間の概念を次のようにとらえています。

【時間とはすなわち生活なのです。そして生活とは、人間の心の中にあるものです。人間が時間を節約すればするほど、生活はやせ細って、なくなってしまうのです】

「モモ」の話を教育の問題に重ね合わせる時、日本の教育の本質が見えてくる気がします。

いま、高等教育はまさに変革の時期を迎えており、私たちは「単なるパイプ」とならぬことを肝に銘じつつ、真の高等教育を確立していかなければなりません。これからは、有名大学を出ても経済を学んだ、工学を学んだだけでは通用しません。平均的人材を輩出してきた大学も反省しなければなりません。工学部は社会に求められる大学を目指して全力を傾注していく所存です。

最後になりましたが、校友の皆様方の変わらぬご教導、ご支援をお願いし、併せて各位のご健勝とご活躍を祈念申し上げ、ご挨拶といたします。

校友会会長
加藤木　研

日本大学工学部校友会の皆様には新しい年を迎へ、如何お過ごしでしょうか。おそらく、希望に満ちた年をお迎えになった事と存じます。

新聞報道によりますと、経済は大分上向きのようであります。経済がよくなれば、我々のふところがあたたまり、その結果消費が良くなると云われていますが、本当にそうなのでしょうか？実際はなかなかうまくいっていないようです。

私は今この原稿を12月末に書いております。今年の冬は昨年と違い大分暖かいです。やはり、温暖化の影響が現れているのでしょう。平成19年度もこの傾向が続くのでしょうか？何か地球全体が異常気象の中にあるように感じます。

さて、昨年の校友会報でもお願い申し上げました、創設60周年記念事業募金への寄付の件ですが、はっきり申しまして伸びておりません。校友の皆様に再度お願いします。1口1万円です。口数は問いませんが、個人で3万円以上、法人・団体で5万円以上ご寄付いただければ、新校舎に配置する「寄付者銘板」にお名前を刻印し末永く顕彰させていただきます。ご寄付を宜しくお願い申し上げます。

校友会の活動を申しますと、第一に校友会会員の皆様の会員管理です。会員管理をしっかり行わないと「母校を訪ねる会」等で同級会等を開催する時の基礎となり得ません。その為には皆様の協力が必要です。ぜひ、皆様の住所等に変更があった場合には、直ぐに事務局へご連絡ください。第二には会員相互の親睦等です。これには全国各地に現在、6支部他、7支会があります。ここでは毎年、支部あるいは支会の総会が行われます。皆様にはぜひ各総会に参加していただきたいと存じます。支部、支会がない府県には、工科系校友会がございます。これは工学部、理工学部、生産工学部および薬学部からなる校友会です。工科系校友会にも参加なさってお互いの情報を交換してください。この支部、支会に対して本部はできるだけの援助をしていきたいと考えております。

最後になりましたが、今年も校友の皆様にとって最良の年でありますようにご祈念申し上げ、ご挨拶と致します。

平成18年度　第49回通常総会報告

平成18年4月22日（土）、午後2時より、日本大学工学部校内の50周年記念館（愛称:ハットNE）において第49回通常総会が開催された。

加藤木会長（電12回卒）による開会の辞が述べられ、総会出席者から議長に西川望氏（土14回卒）、議事録署名人及び書記に田中敏夫氏（建19回卒）を選出し議事に入った。

鈴木守総務委員長（電16回卒）から「報告第1号・平成17年度会務報告」、水上崇財務委員長（建22回卒）から「承認第1号・平成17年度一般会計収支決算」がそれぞれ報告され、それに対して渡邊信一会計監査（土21回卒）から監査報告がなされた。

さらに「議案第1号から第3号の平成18年度事業計画」および「一般会計並びに特別会計収支予算」が鈴木・水上両委員長より提案され、各々に質疑討論の後、賛成多数で承認された。ついで「議案第4号・会則改正」は、渡澤正典幹事長（建14回卒）からその主旨及び改正点の説明がなされ、審議の結果、承認された。更に、各支部長による支部の活動報告、近況が述べられ、閉会となる。

総会終了後、50周年記念館2階のレストランにおいて、小野沢元久工学部長をはじめ工学部関係者、他学部校友会会長の御臨席のもと多数の出席者を迎え盛大な懇親会が開催された。

平成17年度一般会計収支決算書

歳入　　単位：円　△…減

款　項	種　目	予算額	決算額	比較増減	付　記
会　費	1.終身会費	6,000,000	6,210,000	210,000	
	2.入　会　金	25,500,000	26,250,000	750,000	
	計	31,500,000	32,460,000	960,000	
繰越金	3.前年度繰越金	4,082,981	4,082,981	0	
	計	4,082,981	4,082,981	0	
交付金	4.校友会正会員交付金	120,000	120,000	0	
	計	120,000	120,000	0	
雑　入	5.預金利子	3,000	3,766	766	
	6.名簿代金	0	12,000	12,000	
	7.雑　収　入	294,019	250,000	△ 44,019	
	計	297,019	265,766	△ 31,253	
合　計		36,000,000	36,928,747	928,747	

歳出

款　項	種　目	予算額	決算額	比較増減	付　記
事務費	1.給料手当	5,000,000	4,521,870	△ 478,130	
	2.保険料	600,000	496,155	△ 103,845	
	3.交通費	870,000	519,620	△ 350,380	
	4.旅費	20,000	0	△ 20,000	
	5.交際費	1,100,000	951,000	△ 149,000	
	6.需用費	355,275	269,972	△ 85,303	
	7.備品費	300,000	276,570	△ 23,430	
	8.印刷製本費	300,000	286,122	△ 13,878	
	9.通信運搬費	350,000	245,602	△ 104,398	
	10.修繕維持費	100,000	90,540	△ 9,460	
	11.分担金	670,000	670,000	0	
	12.雑費	80,000	17,880	△ 62,120	
	計	9,745,275	8,345,331	△ 1,399,944	
事業費	13.組織対策費	2,400,000	2,396,140	△ 3,860	
	14.会報発行費	5,500,000	4,732,015	△ 767,985	
	15.会員名簿管理費	1,800,000	921,690	△ 878,310	
	16.下宿対策費	0	0	0	
	17.式典費	4,200,000	4,145,450	△ 54,550	
	18.母校訪問費	600,000	518,102	△ 81,898	
	19.負担補助援助費	400,000	400,000	0	
	20.新規事業費	100,000	0	△ 100,000	
	21.電算化事業費	450,000	404,502	△ 45,498	
	計	15,450,000	13,517,899	△ 1,932,101	
会議費	22.総会費	600,000	599,057	△ 943	
	23.役員会費	300,000	448,844	148,844	種目29から流用
	24.連絡協議会費	450,000	489,810	39,810	種目29から流用
	25.旅費	2,600,000	2,893,620	293,620	種目29から流用
	計	3,950,000	4,431,331	481,331	
繰出金	26.服飾造園修斗構立金特別会計繰出金	100,000	100,000	0	
	計	100,000	100,000	0	
積立金	27.積立金	2,000,000	5,000,000	3,000,000	車施費・車旅費の残額から流用
	計	2,000,000	5,000,000	3,000,000	
返済金	28.返済金	3,504,725	3,504,201	△ 524	
		3,504,725	3,504,201	△ 524	
予備費	29.予備費	1,250,000	0	△ 1,250,000	
	計	1,250,000	0	△ 1,250,000	
合　計		36,000,000	34,898,762	△ 1,101,238	

歳入額　36,928,747 円
歳出額　34,898,762円
差引残額 2,029,985 円を翌年度へ繰り越しとする。

「母校を訪ねる会」第26回目を開催

第26回目を迎えた「母校を訪ねる会」。今年度は北桜祭の最終日、10月22日（日）に開催されました。多少肌寒いものの青空の広がる快晴のもと、大勢の校友が往時を過ごされたキャンパスに久方ぶりに集結し、再会の喜びや在学中の昔話を語り合いました。

今年の対象学年は第4回（卒後50年）、第14回（卒後40年）、第24回（卒後30年）、第34回（卒後20年）で、総勢259名のご参加をいただきました。これは近年では最多人数であり、会自体もここ最近にない盛り上がりをみせました。前日に同級会を開かれた皆様は、勢いそのまま工学部キャンパスにお越しになり、当日のみご参加の方々は同級生や恩師との再会を喜び合い、まるで学生時代に戻ったかの様に沸き立っておられました。なかにはお子様をお連れの方もいらっしゃり、こうした場を通して工学部に興味を持っていただき、いつか工学部へ入学を果たしていただけたらと密かに期待をしております。

懇親会は50周年記念館（ハットNE）1階にある学生食堂で行われ、小野沢工学部長・加藤木校友会長の挨拶にはじまり、用意された料理、お酒を召し上がりながら、時の経つのも忘れたかのように、しばしの懇談にふけっておりました。

そんな盛り上がりをみせるなか、今年度は懇親会の場をお借りしまして、校友会より工学部へ「新教室棟建設寄付金」として500万円を贈呈いたしました。校友会から在校生への支援のひとつとして役立てていただけたらと願っております。

また今年度は30周年記念館にて「工学部60年の歩み、写真と資料展」を開催致しました。授業などで使用されてきた様々な機材、いまは取り壊された学舎の写真、キャンパスの風景写真等を展示した資料室で、そちらに足をお運びいただいた方も大勢おられました。

会も後半に近づき、應援團とチアリーダーによる演舞が披露され、出席者とともに日本大学校歌を高らかに斉唱しました。参加者のなかには、校歌斉唱の際、往時を懐かしんでか少し涙ぐむ方もいらっしゃいました。50年振りに母校を訪問されたという方もおられ、その感慨もひとしおだったのでしょう。万歳三唱の後、閉会の辞が述べられ、楽しかった懇親会も盛会のもと終了となりました。名残惜しいとは思われますが、再び会う日を約束して、皆様それぞれ帰路につかれました。なかには会が終わってすぐ、改めて温泉に集合して同級会を開かれる皆様もいらっしゃいました。

今回ご都合がつかずお越しになれなかった方々も、「母校を訪ねる会」以外でも時々は母校をお訪ねになられてはいかがでしょうか。そして平成19年度の開催では今年度を更に上回る人数のご参加をお待ちしております。

第26回 母校を訪ねる会（第4回・昭和30年度卒、第34回・昭和60年度卒）　平成18年10月22日

第26回 母校を訪ねる会（第14回・昭和40年度卒）　平成18年10月22日

第26回 母校を訪ねる会（第24回・昭和50年度卒）　平成18年10月22日

「母校を訪ねる会」第26回目を開催

50年目のわが母校

土木4回卒　**鈴木　諄**

去る10月22日の母校を訪ねる会に、50年ぶりに参加を致しました。校内に入ると、時恰も北桜祭の真っ最中で内外の人々で大変な賑わいでした。

先ず驚嘆したのは学部の発展と充実ぶりであります。校友会報等で多少の予測はしておりましたが、あまりの偉容さに驚きで一杯でした。

地上9階建ての新教室棟70号館からの、キャンパス全体の眺望はすばらしく、学部50年間の発展ぶりに目を見張りました。

安積永盛駅方面を望みますと、昭和48年より当社（鹿島建設）が施工した東北新幹線工事の、第2、第3阿武隈川橋梁が見えて参ります。施工に当たり、所長を拝命した私が、約5年間母校のすぐ側で、しかも昔懐かしいアカシヤ並木の通学路で工事を担当できたことは、本当に幸せでありました。施工中、後輩諸君の現場見学、そして浪越先生（土木5回卒）より依頼され、デビダーク橋梁及び下部工の講義を4回程致しました。土木3、4年生が中心で、皆さん真剣に聴講してもらった記憶が蘇りました。その時の教室は、私共の学舎と段違いに立派になっておりました。

母校を訪ねる会に参加した土木4回卒の私共は、引続き同期会（6回目）を磐梯熱海の一力で、工化卒同期の伊藤巌氏（現朝日ラバー取締役会長）の特別参加で夜の耽るのも忘れ、思い出話で尽きることがありませんでした。翌朝、次回は出来るだけ多くの参加者で元気な姿で3年後の再会を誓い、散会致しました。又幹事の安藤、郡司の両氏には大変お世話になりました。

終わりに「母校を訪ねる会」と云う、すばらしい企画と、校友会並びに、学部関係者のご高配に恵心より感謝を申し上げ、母校の益々の発展と校友皆様のご多幸をお祈り致します。

「母校を訪ねる会」

電気4回卒　**桒名　茂司**

次の「母校を訪ねる会」に招待されるのは10年先で、元気で旧交を温めるには年齢的に困難かと思い、出来るだけ参加する旨、御世話になっている同級会幹事から便りがあった。

不思議な説得力があり今回の出席となった。母校は学生時代を思い出せる校舎の痕跡は完全に消え去り近代化された建物群に置きかえられていた。

大学当局、校友会他の皆様の御心配りにより、賑やかな懇親会の後、岳温泉あづま館にて電気工学第4回卒業7名、学生時代の話に花が咲き夜半まで楽しい時を過ごした。「山川異域　風月同天」 これは奈良時代の悲劇の左大臣長家王が留学生（遣唐使）に贈った言葉とされている。日大工学部の卒業生は様々な分野で、国内、さらに世界で御活躍のことと思われる。技術は世界規模で交流されて居り、どこかで素晴らしい事が考え出されれば、国を越えて利用されるようになった。食糧・省エネルギー・環境に配慮した技術、家庭生活の新しい技術などなど、根底には人間のために役立つ技術が求められている。

私共の学生時代は多様な先生が集まって居られ人間的なふれあいに恵まれていた。物のない時代で実験器具さえ自作のものがあり、卒業後の仕事に役立つものが多かった。現今、物の有り余った時代には、次の頁を捲る心意気・知慧が求められ、同じ天をいただく人類にどのような貢献が出来るのか母校に期待したい。

母校が発展し、世界から認められる事は卒業生にとって大きな喜びである。

卒40年記念同級会及び母校を訪ねて

土木14回卒　**早川　一胤**

昭和41年3月、日大第二工学部名、最後の卒業生として、土木工学科を出てから40年が過ぎたので工学部校友会「母校を訪ねる会」に合わせて、記念の同級会を10月21日（土）、土湯温泉「天恵園」にて開催しました。

これまで卒20年以降5年に1回福島県内で同級会を開いて来ましたが、いずれも30数名で盛り上がっていました。今回の卒40年では、常連のクラスメートの他界等があり、参加者の期待はしなかったのですが、当日の参加者は42名にのぼり、卒業以来の参加者、久し振りの参加者、それに校友会から村田先生の参加も戴き、多数が入り乱れての会話は夜通しになったグループもあり、それでも語り尽くせない面もあった様で、大いに盛り上がりました。静かな土湯温泉もびっくりしたのではと考えています。

翌日は、母校工学部に集合して「母校を訪ねる会」に参加し、工学部、キャンパスの充実振りを各々思い思いに見学して、学生時代の面影をさがして廻った様ですが、校舎の一部に名残がある程度で、40年の歳月を改めて思い知らされた事と思います。

さて、次の5年後は母校にどの様な変貌があるのか見たいものです。健康で気力を充実させて、次の計画に参加を期待します。

「校友会報　母校を訪ねる会」

建築14回卒　**佐古　倫平**

母校訪問の前夜、郡山駅近くのホテルで同期のクラス会を催した。恩師にもご同席いただいた。36名の参加、全国からよく集まった。まめで誠意ある根回し幹事のお陰だ。

「次の10年後はもう無理、事実上今回が最後」と思い、40年振りに駆けつけた友。外国国籍をとって久しいのに、この日のために帰国した友。九死に一生の大手術を乗りきり、元気な姿を見せた友。先立って逝った最愛の伴侶への感謝を片時も忘れずにいる友。60歳の峠を越えた今も「肩書き付き」の名刺を交換している友が意外に多かった。バリバリの経営者もいた。手職を身に付けている者の強みというべきか。

よく晴れた懐かしいキャンパスでの記念撮影。思わず背筋が伸びる。改めて校友会諸氏にお礼を申し述べたい。これからは「便りの無いのは元気な証拠」とばかりも言っていられない。折にふれて「消息を確かめ合うことの大切さ」を知る年になった。お互い何ができるでもないが、気にしてくれている旧友がいるということは心強いことだ。

オンボロな木造校舎にもかかわらず、心ははつらつとしていて豊かだった。当時はまだはっきりとは自覚できていなかったが、今振り返ってみると「強い意志・志を持った者の集まり」だったように思えてくる。後身・後輩に申し送ることがあるとすれば、豊富な経験に裏打ちされた「希望」を、機会あるごとに語り続けることかも知れない。

「母校を訪ねる会」に参加して

工化14回卒　**今井　昭人**

「母校を訪ねる会」を機会に前日の10月21日に同窓会を開催致しました。郡山駅前に集合し、安達太良山のロープウェー登頂口まで直行。安達太良山をしばし散策した後、同窓会会場である岳温泉「陽日の郷　あずま館」へ。同窓生22名と稲葉氏の奥様、合計23名が集合しました。

40年振りの再会で、外観はすっかり変わった方もいらっしゃいましたが、名前を確認すると直ぐに、40年前にタイムスリップしました。まだまだ現役で頑張っている方、第二の職場で頑張っておられる方、お孫さん相手の悠々自適の方、趣味三昧の方等様々でしたが、皆さん気持ちは若く、元気な人ばかりでした。共通した所は、今後、いかに有意義な人生を送ろうかと意欲のある方々ばかりで、話は尽きませんでした。

翌日、ホテルのバスで校友会まで送って貰い、その時目にした母校の予想以上に変貌した姿に驚きました。60周年記念会館の展望台から眺めた母校は、一瞬、方向感覚さえ失ったかの様な正に浦島太郎状態でした。

下に降りて、我々が学んだ時代の面影を一生懸命探すと、本館、1号館、実験棟を探し当て、更に、第二工学部と書いてある灰皿を発見した時は、宝物を探し当てた様な感動を得ました。

母校の発展を見るのは喜ばしいことに違いないので

すが、あまりの変貌ぶりに「我々が学んだ学校では無いのではないかと」一抹の寂しさが襲ってきて、複雑な気持ちでした。

その気持ちも「30周年記念館」に入り消え失せました。母校の歴史を詳細に展示してありました。過去の歴史の上に現在の発展があることを充分に伝えるものであり、日大精神を将来永遠に伝えられるものと安堵した次第です。

終わりに「母校を訪ねる会」を開催していただいた校友会の方々、関係者の方々に心より感謝し、御礼申し上げますと共に、母校の更なる発展をお祈り致します。

母校を訪ねて

土木24回卒　**澤野　正則**

「母校を訪ねる会」の前日、少林寺拳法部の同期の仲間と磐梯熱海温泉に泊まり盃を交わした。当部は現在活動している少林寺拳法部ではなく、昭和42年に発足、昭和54年に廃部となったクラブである。

私が入部したのは学園紛争が収まってから3年程経った昭和47年である。当時は、「学園紛争は懲りた。学生には運動をやらせろの時代」であり、武道関係のクラブには武道館と部室が与えられ、校内のあちこちでは運動部員の威勢のいい声が響いていた。当時の少林寺拳法部は部員数が130名を超え、東北代表として全国大会にも出場していた。ところが、昭和54年、ひとつの時代を築いたクラブは12年間で幕を閉じた。その後、昭和60年に同好会として発足、平成10年に体育会クラブになったと聞く。

訪れた母校でまず足が向くのは、やはり武道館だ。ここには大学4年間の思い出がある。練習場の壁には歴代幹部の写真が掲げられていたが、無論、我々の写真は無く落胆したが、どの写真にも、「りりしい顔」があり安心した。

学内で目を引くのは近代的な建物である。我々が「気合」を入れてもらった森には心地よい風が吹きモダンな建物が建っている。

懇親会では、クラブの部長をしていただいた田嶋文義先生にお会いできた。先生は平成元年に退職され、現在は郡山市内に住んでおられると言う。

土木工学科でお世話になった中村玄正先生にもお会いできたが、あと数年で退職と聞く。さびしい限りである。

「30年目の母校」

建築24回卒　**大川原　正仁**

卒業後、30年目の「母校を訪ねる会」の前日、郡山ビューホテルアネックスにおいて同期会を開催し、昨年退任されました佐藤平先生と非常勤でご活躍されている小栗治男先生に出席を頂き、総勢16名での懇親会を行いました。さすがに卒業後30年も経過すると連絡も希薄になっており、なんとか人数確保に努めました。半数は10年前と同じ顔ぶれでしたが、遠くは愛媛県から参加してくれるなど、卒業して以来の顔合わせでもあったことから、懐かしい思い出と共に大いに盛り上がり、二次会へと流れて行きました。

翌日は快晴に恵まれ、北桜祭も開催中で大変な賑わいであり、地元在住の私自身も、こうした機会に恵まれてこそ、学生との会話やキャンパスを見学することができ、施設のすばらしさを肌で感じることができました。また、当日に母校を訪ねた遠方の同期の方も数多くおり、名札と顔を確認しながらの懐かしい再会となりました。なかでも当時の建築学科女子学生の半数である3名の方が出席してくれて感激しました。しかし、マドンナであったにもかかわらず、顔を合わせても誰だか判らないなど、ある意味失礼な再会でした。

懇親会が終了し、十年後の再会を約束して別れましたが、その頃は私たちも現役を引退し、第二の人生を歩んでいる事を想像すると、年月の速さを感じる年代になったのかと感じてしまいました。

最後に、10年前に引き続き今回も同期会の代表幹事を快く引き受けてくれた藤田君に感謝するとともに、「母校を訪ねる会」を企画運営されました校友会の皆様にお礼申し上げます。

「母校を訪ねて」

機械24回卒　**菅野　正行**

『母校を訪ねる会』の案内の連絡が届きましたのが、8月頃だったと思います。私は福島県内に住んでおりますので、郡山には仕事又は私用にて出かける事があります。帰りには工学部の近くを通りますので、つい遠くより母校を眺めてしまいます。

今回このような会で母校に行ける事を楽しみに参加させて頂く事にいたしました。母校を訪問する前日には郡山駅前にて、卒業生同級会が2次会も含め盛大に開催されました。皆さん学生時代を語り、近況を語り、時代の歌を歌い夜遅くまで楽しく過ごした様に思います。会を企画して頂きました郡山の幹事の皆様に感謝いたします。

母校訪問の式典前、校内を見て回りましたが新しい研究棟、学習棟が次々と建てられ、学べる在学生をうらやましく思う反面、卒業研究にて使用しておりました実験棟などが無くなるなど、時代の流れに寂しさも感じられました。

式典におきましては小野沢工学部長の挨拶に始まりました。進行共に応援団による、校歌は30年ぶりの私は感激をいたしましたし、楽しませて頂きました。工学部、校友会の関係の皆様に深く感謝申し上げますと共にこれからの益々のご発展をお祈りいたします。

同級生の皆様には又元気な姿でお会い出来ます様願っております。

卒業後31年「母校を訪ねる会」に参加して

工化24回卒　**庄司　功一**

光陰矢のごとし、学部を卒業してから31年後に、母校日大工学部からのご案内があり、思い切って「母校を訪ねる会」に参加させて頂くことにしました。

入学式の時は、正門から本館まで桜並木が立ち並び、桜が満開に咲き誇っていたことを懐かしく思い起こされます。あの美しさは今でも忘れずに心に残っています。その大学に「母校を訪ねる会」と言うことで回生毎に訪れましたことは31年ぶりです（物理化学研究室の鈴鹿敢先生の所に個人的に訪れた事はありましたが）。前回の「母校を訪ねる会」には行事等で忙しく参加できませんでしたが、今回は少し余裕が出来たことで、家族も一緒に参加させて頂きましたことは、良い思い出となりました。

私は、前日石巻を発って日大工学部の郡山研修会館に宿を取りました。新しい道路（バイパス）が網の目のように錯綜して出来ており、4年間住んでいた記憶が当てにならずに迷ってしまいました。ようやく到着したのは6時過ぎでした。食事を終えて見る夜景は、綺麗で百万ドルの夜景ではないかと思ったくらい、つくづく31年前とすっかり変わったと思いました。

次の日、受付が10時と言うこともあり少し時間があったので、その当時お世話になった下宿（御代田）のおじさんとおばさんにご挨拶に行きました。そこで色々と懐かしいお話をしました。私の娘は、おじさんとおばさんを大変気に入って、本当にいい人達ですと言っていました。

受付は“50周年記念館（ハットNE）”で行われました。この記念館は新しい建物でデザインも素晴らしく、音楽会などのイベントが出来るものでした。このほかにも、新教室棟、46号館、47号館、54号館など新しい建物がありました。また、研究施設としては、環境保全共生共同研究センター、次世代工学研究センターなどがあり充実した設備を誇っていると感じた次第です。私が4年生の時に卒業研究（物理化学研究室）で使用した実験棟と図書館は未だに健在であり嬉しく思いました。記念写真撮影の合間に大学のあちらこちらを見学して思い出を懐かしく伝えられたことが、家族には良かったと思います。

懇親会では、招待者の中に尾崎武二先生がおりまして懐かしくお話をさせて頂きました。工化24回生の同級生も私と大橋富美夫君の2人だけでした。寂しい気がしています。もう少し24回生が集まれば良かったなあと思いました。また、豪華な料理などはバイキング形式であり、7～8名のコンパニオンもいました。さすが日大だと変なところで感心しました。そこで学部長の挨拶、乾杯、出席者の挨拶等があり、懇親会は盛り上がってきました。挨拶が一段落したところで、退席をして30周年記念館に向かいました。そこは、工学部の50年の歩みを記録に残す所でした。そこで「工学部50周年記念誌・写真集」等を無料で頂きました。貴重な小林巌先生の論文が載っている「30周年記念論文集」も頂きました事は感無量でした。大切にしたいと思っ

ています。こういう時は時間の経つのも早く瞬く間の時間でした。本当に楽しい1日でした。ありがとうございました。

これからも母校の益々の発展をご祈念申し上げますと共に、この機会を下さった工学部、校友会の皆様に感謝致します。そして、今回参加されなかった工化24回生の皆さん奮って参加して下さい。思い出話でもしましょう。

母校を訪ねる会に参加して

電気34回卒　**渡部　一則**

卒業して20年、時が経つのも早いもので今回“母校を訪ねる会”の案内を頂きました。同じ卒研室だった柳生君からこの会に合わせて同級会の誘いが有り、小人数ですが6人で三春の温泉宿にてまず前夜祭を実施。今や部下40人をかかえて奮闘する部長の山内君。在学時代は応援団長だった松野君。一緒に電車通学した和田君。新潟から来た吉崎君はご当地の銘酒を持参。この酒を酌み交わし学生時代の思い出話や近況報告で夜更けまで盛り上りました。

翌日の母校を訪ねる会では、北桜際も開催されており活気あふれるキャンパスを見学することができました。当時から比べると近代的な建物が増え、また女子生徒が多く目立ち、時代の流れを感じます。懇親会ではさらに懐かしい同級生に多数出会い更に卒研室の先生であった松塚先生、長澤先生にもお会いできとても感無量でした。20年前の卒研は勉強だけでなく野球、飲み会も盛んでしたので、本日の懇親会は当時にタイムスリップしたような感じでした。あっという間にお開きの時間がきてしまい名残惜しい中、次回10年後の再会を約束し皆と別れました。

最後にこのような機会を与えてくれた工学部校友会関係者の皆様に感謝すると共に工学部の益々の発展、学生、校友の皆様のご健勝とご活躍を心より祈願いたします。

クラブ・OB・OG会報告

北海道ゴルフツアーと登別温泉親睦の旅

機械6回卒　あかしやファイト会　**小池　武志**

第28回の親睦会（ゴルフコンペ）【春】は北海道、登別温泉（登別万世閣）と樽前カントリークラブ（苫小牧市）で6月26日、27日に行われた。当日、羽田から飛び立つ者、前日、JRで行き合流する者、ゴルフはしないが、奥様と温泉まわりと観光を楽しむ者総数18名の参加でした。お陰さまでゴルフ日和の北海道らしいスッキリとした一日でした。

6回卒業（昭和32年度）ですから、一番若い人が72才です。『祝い重ねた……』までは、まだまだと皆さん思っておりますが、顔をあわせると『このところ身体の調子はどうだい…』から始まり、郡山で学んだ、健康で夢の有る時代の話に花が咲きます。日本の高度成長期を乗り越えてきた強者共ですが、病の一つや二つ皆さん持っていて、それが糖尿病であったり、前立腺であったり、眼や椎間板ヘルニア、抗がん剤治療を続けながらであったりする。脳梗塞で手足が少し不自由でも、家族の手を借りながら、この日のために、リハビリを日課としコースに立ち、人の手を借りずホールアウトする自分と戦う、ゴルフ好きの醍醐味でもある。

よく世間では病を治すには医者50%、本人50%と言いますが、食を入れると本人65%位に考え、家にこもらず、外に出てウォーキング、ストレッチ等を行う事で全身に《癒し》が生まれ病も改善されると思います。

当会でも最近、前夜祭、後夜祭と言って一泊どまりのコンペが多くなり、スポーツのみならず友と語るのも《癒し》の効果ではないだろうか。

当会では会員6名の出席が有れば親睦会も成立となっています。年2回、病と仲良く共に生きるをモットーに頑張りましょう。この先何年続きますか、乞うご期待。

尚、第29回親睦会【秋】は11月19日、20日に外房一の宮カントリークラブ、前夜祭は国民年金保養センター「そとぼう」で総数17名の出席で行われます。

末筆ながら母校の発展と校友各位のご健康とご多幸をお祈りいたします。

「参加してよかったー」、仲間の顔が輝く

電気12回卒　工学部管弦楽部OBOG会広報担当　**桃井　忠男**

第7回総会は、8月5日(土) 13:00からニュートーキョー数寄屋橋本店9階『LA STELLA』で行われた。年次活動、広報活動、会計、会員110名の近況報告、毎月の演奏練習活動や「来年は工学部管弦楽部創部45年」の紹介もあり、最後に事務局から「会費納入先は一昨年に、郵便局口座【口座名】日本大学工学部オケOB会【記号】10530【記号】651053に変更した」ことの注意喚起があった。

懇親会は津川さんの乾杯の音頭で開始し、引き続き17人の参加者の自己紹介が行われた。人々は異口同音に「参加してよかったー」と言う。「毎月定期的に演奏や練習をしている」、「新たに楽器に取り組んだ」、「久しぶりに音楽鑑賞を楽しんだ」などと目を輝かせて語る仲間は、閉会時間を忘れて、熱く過ごした。千秋会長は「もう一度楽器を始めたいという人や、学生時代と違った楽器に手を出す人が出てきたね。音楽活動では大変良い取り組みで、この会が益々盛り上がる兆候として喜んでいます。」と挨拶した。

確かに、仲間の自己紹介には、次のような声があった。橋本さんは「（学生時代はチェロ）チェロをもう一度始めたい」、森さんは「（チェロ）その後、フルート、現在はチェロです」、小川さんは「（バイオリン）現在はピアノ」小西さんは「（バイオリン）琴とバイオリンをもう一度始めたい」、曽木さんは「（バイオリン）その後チェロ」、千秋さんは「（バイオリン）その後はチェロ」。また腕前に合った(高価な)楽器を持っている人も多くなった。卒業後即購入した方や退職後に奮起して購入した方には、　千秋さん、曽木さん。仲間の活動に影響されたのか最近購入した方には、吉田さん、桜井さん、津川さん、杉坂さん、森さんですが、「お陰で練習が楽しくなった」との感想が聞かれた。楽器は奏ない人でも、「地域音楽活動の支援」や「作詞活動」で活躍したり、音楽で培ったセンスで「絵画活動に燃えている」人など、音楽との絆を大切にし、それぞれ目標を持って活動していたのが共通だった。

懇親会の演奏は結局17時40分から始まり、モーツアルト生誕250年にあわせ、アイネクライネナハトムジクの第1、第2、第3楽章、夏の思い出（外野席の合唱付き）を演奏したが、曲目を減らさざるを得なかったのは残念だった。「練習時間が足りず、音合わせが不十分だった」と言うわりには音色が素晴らしかったので、「次年度総会が一層楽しみ」な会になった。

文章：桃井忠男＝S38電気工学科卒、写真：小川昭彦＝S40電気工学科卒）

第35回サッカー部OB会

土木15回卒　会長　**森川　清**

平成18年度第35回サッカー部OB会は、7月9日(土)午後一時より郡山西部サッカー場において30名の参加のもと開催されました。例年通り、まず若手OBと現役学生の交流試合から始まり、最終のOB東西戦、と、久しぶりのサッカーを堪能しました。試合終了後、総会を開催し、事務局より平成17年度の会計報告、来年のOB会開催予定等が決定されました。

懇親会は、午後7時より現役学生も含めて、工学部郡山研修会館で行われました。今年は平成15年度卒のOBの出席が多く、楽しい懇親会となりました。会長挨拶、現役への支援費用の授与、サッカー部高橋部長及び本田顧問より学校ならびにサッカー部の現況報告、主将意思表明があり、最後に全員で校歌を斉唱し閉会となりました。懇親会終了後、市内に繰り出し旧交を深めました。

翌日は有志によるゴルフ大会も開催し、来年また会えるように願い、散会しました。

また、昨年は、4月25日に、51年度卒業の舟木君を中心とした51～57年度の人たちによる懇親会、さらに、4月21日には関東地在住による懇親会が、本田顧問・高橋先生をお迎えしてそれぞれ開催されました。郡山でのOB会になかなか参加できない人達が出席され、懐かしい話に花が咲き、楽しい夜を過ごしました。
今年も、4月中ごろに開催したいと考えています。

平成19年度のOB会は、平成19年7月28日(土)郡山にて開催予定です。ぜひ大勢のOBの出席を待っています。日大工学部サッカー部のホームページが開設されています。是非ご覧ください。

http:/www.geocities.jp/fcnitidaikou/index.html

サッカー部OB会事務局

工業化学科同窓会

工業化学32回卒　**堀　豊**

物質化学工学科　佐藤良和先生をお招きして、5月23日、名古屋にて工業化学科同窓会を開催いたしました。昔話から近況に至るまで、夜が更けるのも忘れ皆で語り合いました。

先生より大学の近況としてJABEEの認定を受けたこと、新校舎ができたことなど、教育、研究の充実ぶりをうかがうことができました。

高分子研究室を巣立ち、20年になりますが、我々が今あるのも当時先生方のご指導の賜物であること並びに絆で結ばれていることを実感いたしました。

五十嵐雅史さんを悼んで

建築14回卒　**鈴木　隆**

平成13年1月4日、校友の五十嵐雅史さん（平成6年度建築学科卒業・新潟市出身）が29年の短い生涯を閉じた。雅史さんにとって、郡山での4年間は最も充実したときだったようで、学生時代に、学校のこと、三沢研究室のこと、下宿のことなどを、いつも楽しそうに語っていたことを、ご両親から伺った。

また、いまでも研究室の仲間や勤務先の同僚等がご焼香に訪れてくれて「校友のすばらしさに感動している」と、語っておられた。

このたび雅史さんの遺志を受け継ぎ、「母校のお役に」と、ご両親から寄付がなされた。学部では「建設中の教育棟に使わせていただく」と、70号1階7014講義室を五十嵐さんにちなんで「五十嵐ホール」と名づけられた。4月15日の竣工式には、五十嵐純夫・弘子ご夫妻がご招待され、また、7月5日にはご夫妻と小野沢学部長、佐久間事務局長が参加して、70号館南側で記念植樹が行われた。

まだ小さなソメイヨシノですが、近い将来、五十嵐さんの思いとともに、満開の花を咲かせてくれることでしょう。

支部活動報告

北海道支部活動報告

建築25回卒　北海道支部長　**横関　一伸**

本年度支部総会は4月14日（金曜日）本部より加藤木会長をお迎えして、北海道支部会員60余名の参加により例年通り、総会及び懇親会を行いました。今回は役員改選期となり懇親会では郡山での生活や思いで話に華を咲かせ、又次回の総会での再会を誓い絆を深める一日となりました。又、8月2日には、本部の村田顧問、札幌からは横関、川幡副会長、金谷幹事長が参加し函館にて、道南支会を行い、二十数名が集まり、郡山での、下宿生活等の昔話や近況報告などに大変楽しいひとときを過ごしました。この様に北海道支部は8支会でも懇親会を行い同窓仲間の絆を確かめ合っています。

19年度は同窓会総会及び懇親会を夏頃に行いたいと思い2月の役員会で相談致します。又、釧路で9月頃に支会懇親会（ミニ同窓会）を予定しそれには北海道支部長ほか役員も出席となっています。尚、北海道支部では北海道にお帰りになった方、又、新卒生の参加を歓迎しています。

関東支部活動報告

土木18回卒　長野県校友会事務局長　**田中　敏雄**

平成18年７月8日（土）平成18年度工学部校友会関東支部長野県校友会総会を開催しました。長野県には、工科校友会長野県支部が平成10年9月27日に設立しましたが活動は低迷状態です。

関東支部長野県校友会は、関東支部の先輩方の後援で平成13年3月17日設立しました。土木工学科、建築学科を中心に結成され、その後機械工学科、工業化学科も参加するようになりました。設立当初の役員数は11名でしたが、現在は世代交代も考慮し、若い世代を加え25名となりました。「灯した火はたとえ少人数になっても消すわけにはいかない」とすることは、三浦憲会長はじめ役員全員の意見でもあり、長野県校友会の誇りとするところでもあります。

ここ近年、総会への出席者の顔ぶれも決まってしまい、出席者の増加が主な議題となっています。年2～3回役員会を実施していますが出席者増加への名案がなく「役員だけでも手を離さず会を守ろう」と校歌で締めくくるのが常となっています。

会員相互の交流も個々に行なってはいますが、総会等の出席者増にはつながらず、今後の課題となっています。

中央 三浦 憲会長

北陸支部活動報告

建築14回卒　北陸支部長　**鈴木　隆**

校友諸兄には益々ご活躍のことと心よりお慶び申し上げます。

今年度の主な活動は、8月5日に新潟市内のホテルにて第6回定時総会を、本部より加藤木会長をお迎えし、30余名参加で開催しました。支部長の開会挨拶に続き、加藤木会長からは、校友会の近況を含めたご挨拶を頂き、参加者一同は懐かしく興味津々拝聴しました。

総会終了後は、小野沢工学部長・佐久間事務局長をはじめ学部教職員、ご父母、校友会員の三者による工学部懇親会が開催され、学部の教育方針・学生生活の現状・地域社会情勢や求人情報等についての情報交換が行われました。会員は目的である「工学部との連携を密にして母校の発展に寄与」する絶好の機会と、自社アピールや企業の望む学生等について積極的

な意見交換を行い、有意義なひと時を過ごしました。

また、10月29日には阿賀高原ゴルフ場に於いて懇親ゴルフ大会を開催し、高原の紅葉絶頂の中でプレーを満喫しました。

当支部は御多分にもれず会員増強に苦労しておりますが、活気と魅力ある支部づくりに努めてまいりますので、支部並びに他支部の皆様のご指導を賜りますよう宜しくお願い致します。

東海支部活動報告

土木28回卒　東海支部事務局長　**近藤　直幸**

日本大学工学部校友会の皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

東海支部の平成18年度の活動と致しましては、例年通り、春と秋のゴルフコンペを開催いたしました。

当東海地方にはゴルフ場も数多くあり、土曜日でも低価なゴルフ場を校友の方々に探していただき、数多く参加していただけるように工夫しながら実施してきた中、何とかこの秋の開催で、52回目を迎えることが出来ました。残念ながら、どちらもあまり天候には恵まれませんでしたが、和気藹々とプレーを楽しみ校友同士の懇親が取れたものと思います。

また、支部総会は7月21日(金)に、例年同様、ホテルキャッスルプラザにて、校友47名の参加と、校友会からは村田校友会顧問、大学からは森土木科教授を来賓にお招きして、校友会と大学の状況を各々御報告いただき、引き続き会計報告、年間活動報告等があり、原案通り承認され、総会は無事終了いたしました。

その後、懇親会に移り、校友同士、先輩後輩の分け隔て無く、酒を酌み交わしながら語らい、最後には出席者全員が肩を組み、輪になって校歌を熱唱して閉会となりました。

今年度で35回となる総会ですが、出席者も減少傾向で、何よりも若い校友の出席が非常に少なく苦慮しております。今年度は、会費を一律2,000円下げてみましたが、出席者の数は例年と殆ど変わらない状況でした。他支部にて良案があれば、是非ともご伝授願いたいと切望しておりますので、宜しくお願いいたします。

そして、支部年間最後の行事としての忘年会ですが、平成18年度は、東海支部理事の市川三千男先輩（建築17回卒）が、秋の褒章で黄綬褒章受章の栄誉に輝かれましたので、祝賀会を開催させていただいたところ、30名の校友に参加していただき我が事のように喜び、お祝いすることが出来ました。

本年度も、例年通り支部活動を実施して参りますので、多数の校友の方々のご参加を心よりお待ち申し上げております。

静岡アカシア会開催

土木27回卒　東海支部静岡支会　会長　**大澤　俊幸**

9月30日(土)、静岡市内にて静岡アカシア会の本年度の総会・懇親会が160余名の校友が集まり盛大に開催された。

静岡アカシア会は昭和30年代初め頃より、工学部(旧第二工学部）土木工学科卒業の静岡県庁土木部に勤務されていた藤原正臣氏の尽力により、工学部のシンボルであるアカシアの森の名を取って『アカシア会』が結成され、校友の団結と後輩の育成を目的に今日まで定期的に開催されてきた。特に、昭和30～40年代当初は第二工学部の名称より夜間部と間違えられたり、東京の理工学部より低く見られるという不利な状況があったが、逆にそれが校友の団結と心意気の高揚に結び付き、今日では静岡県庁始め市役所、県立工業高校、企業は工学部の校友の活躍が目立っている。特に静岡県庁、静岡市役所の建設関連部門は工学部校友が歴代トップの座にあり一大勢力を占めている。

平成9年には工学部開設50周年にあわせ、会長に大澤俊幸(静岡工高)が就任し、組織の整備も進められ、会員相互の交流・懇親はもちろんのこと、高校生への本

学へのＰＲ、父母会と一体となった在学生への就職活動援助を積極的に押し進め大きな成果を上げている。大澤会長は、「もともと工学部は『家族大学』と呼ばれるようにアカシアの森で学んだ先輩・後輩の絆は強く、それは活発な校友会活動とともに日本大学の中で一番であると自負している。このように一通の案内状も出さなくてもすべて口コミでこんなに多数の校友が集まる様は他学部の注目の的である。これも藤原先輩始め多くの先輩の方々が半世紀にわたり苦労して築き上げてきた誇りある宝である。この伝統を守り母校の一層の発展のためにがんばりたい。」と話された。会の前に開かれた役員会では、静岡支会を来年度より支部へ昇格、そして在学生への就職活動への父母会と一体となった活動、そしてとくに工学部校友会の大きな特色である教職に従事されている校友をもって組織されている工学部校友会唯一の職域支部であるアカシア教育研究会と連携して一人でも多くの高校生を本学へ送り込むためのＰＲ活動の徹底の三つの活動方針を採択し総会で承認された。

総会の後の懇親会では会長挨拶に続き、高橋教授より学部近況報告、加藤木校友会会長よりの祝辞、藤田脇右名誉顧問の乾杯で懇談に入った。会も盛り上がったところで常日頃会の発展にご支援をいただいてきた第6回卒業の石部欽一名誉顧問より、「昭和20年代後半、まだすべてが木造校舎で施設設備も不備の中、あるときは、学校の存続も厳しいということも出たが、青春多感な一時期を美しい自然に囲まれた学び舎で郡山の人達の厚い人情に包まれて皆で力をあわせて東京の学部に負けまいと頑張ってきたことで今日がある。先年母校を訪ね、広大な敷地にたつ近代的な校舎を見るとまるで浦島太郎であった。この会の大盛況に証明されるアカシアの森に学んだ校友の団結とたぐいまれなすばらしい和をたいせつにしてほしい」と話され出席者に大きな感銘を与えた。

会は来年度、西部地区の担当で浜松市で開催される。最後に平成の卒業生である若手の杉山哲也氏（安藤建設）の万歳三唱で閉会の幕が下ろされた。

日大卒業生集い 思い出話に花

葵区でOB会

日本大学工学部校友会・東海支部静岡支会（藤岡アカシア会）（大沢優幸会長）はこのほど、来年の同学部開設六十周年を記念したOB会を静岡市葵区紺屋町のグーポール会館で開いた。

県内出身の卒業生約百五十人が集まった。現学部長の高橋迪夫教授らを招いて同会の交流と学生の支援活動活性化を語り合ったり、学生時代の思い出を話し合うなど、久しぶりの再会を楽しんだ。

昭和三十九年卒の市内の藤田協右さん（六五）は「（OB会は）どこよりも強い結束力がある」と豪語。市内の大西理弘さん（六〇）も「一つの家族のような存在」と笑顔で語った。

OB会を開く静岡アカシア会＝静岡市葵区紺屋町のグーポール会館

平成18年度四国支部総会を終えて

建築22回卒　四国支部事務局　**牧野　隆次**

四国支部総会は7月22日（土）「功名が辻」で有名な高知城前にある共済会館で開催いたしました。昨年度までは四国支部事務局のある高松でおこなわれていましたが、ぜひ高松以外でもと考えておりましたところ、高知校友の申し出があり今回開催の運びとなりました。香川より10名うかがい高知20名の参加で開催されました。これを機に徳島、愛媛と四県巡っての開催を考えております。四国各県の校友のご協力を熱くお願いいたします。

懇親会は北岡保之支部長の挨拶に引き続き来賓の校友会村田先生から校友会及び学内の近況を含めたご挨拶を頂き校友全員、懐かしく拝聴させていただきました。

濱田利男高知分科会会長（機械5回卒）の乾杯によりパーティーが始まり、酒を酌み交わしながら楽しく歓談し、最後に日大校歌、若きエンジニアの歌を歌い、閉会となりました。

平成18年度支部活動はつぎのとおりです。

懇親ゴルフコンペ

連絡先：平山 正晴（土木24回卒）TEL0877-46-1888

毎月第1木曜日PM6：30より懇親会

場所：「半分」TEL087-821-7856

多数の校友の皆様の参加をお待ちいたしております。

日本大学工学部校友会九州支部

建築28回卒　九州支部長　**上村　公仁隆**

九州支部の活動報告ですが、毎月の第3水曜日のアカシヤ会は休まず開催しました。参加者は多い事もあれば、2～3人の時もあります。アカシヤ会の他には日本大学校友会福岡県支部で名簿を作る事になり、毎月の月末の金曜日に編集会議がありました。三桜会、医学部会、江古田会、桜師会、桜建会、一水会、歯学部会、工学部会などの各学部や学科の校友会の名簿を一冊にまとめて作成することになりました。個人情報保護法の関係で難しい面もありましたが、なんとか出来上がりました。9月29日金曜日に工学部校友会九州支部の総会を開催しました。今年はいつもの年より1ヶ月早く開催したのですが、案内が遅れたためか、参加人数が少なく、寂しい総会でした。少子高齢化はどこの会でもあるのでしょうが、九州支部もなかなか若い会員が増えませんし、今まで土木、建築の出席者が多かったのですが、公共工事の削減などで建設業関係者に元気がなく、比例するように総会の出席者が減っているような気がします。今後は九州支部の分会を各県に作ってもらって、九州各県と情報の交換をして、総会での参加者を少しでも増やして行きたいと思います。

支部報告・アカシア教育研究会

建築22回卒　会長　**永田　進**

工学部校友会唯一の職域支部である本会は平成18年5月現在、492名の会員（現職・元職）が大学・高等学校を中心にすべての都道府県・校種の教育機関に在職しております。活動内容は、会員相互の懇親・交流をもとにしての研修はもとより、教職希望の学生への支援、そして母校へ優秀な生徒を入学させようということを柱としてまいりました。これらについては、教職特別講演会（後述）の開催はもとより、年々入学志願者の減少が続く工学部でありますが、今年度も昨年を大幅に上回る210余名の会員校よりの多数の入学生がでました。これはひとえに校友の熱き母校愛の表れと思います。今後は、工学部のみならず日本大学全体そして高校籍の会員校が長年お世話になったり、特色ある教育活動を行い実績をあげている校友の勤務している大学（道都大学・金沢工大・新潟工科大・八戸工大・愛知工大・崇城大学等）とも今後協力関係を強化したいと考えております。

◎ ニュース　本会が全面的に協力し開催されている教職課程特別講演会は平成18年11月25日に開催されました。講師は母校・新潟南高校野球部監督として新潟県勢58年ぶりに甲子園ベスト8を成し遂げた現県立新発田農業高校校長の関川弘夫先生（文理45年卒）をお招きし行われました（福島民報参照）。

若き教師への期待語る

日大工学部 教職課程で特別講演

郡山市の日大工学部で二十五日、教職課程特別講演会が開かれた。

教職課程を履修する学生や教職員ら約二百人が出席した。昭和五十九年夏の甲子園で、監督として新潟南高野球部を8強に導いた関川弘夫さん（現新発田農高校長）が「若き教師への期待」と題して講演した。

同大の文理学部、野球部のOBでもある関川さんは、長年の高校野球人生を通して学んだ自らの教育哲学や球児たちとのエピソードを紹介。生活指導における「しかること」の重要性、部活動の活性化が学校にもたらす影響などについて熱っぽく語った。

特別講演は秋の年二回開いている。

学生らに向けて講演する関川さん

◎ 消息　関根敬次先生（建築16回）本会常任顧問　平成18年度末をもって福島県立福島工業高校校長を定年退職されました。先生は宮城県立白石工業高校に赴任以来38年、工業教育一筋にお勤めになりました。県工業高校校長会会長・全国工業高校校長協会理事を勤められました。

◎ 消息　塚本達夫先生（建築17回）本会常任顧問　平成18年度末をもって宮城県工業高校を最後に定年退職。先生は山口県のご出身で専修大学北上高等学校に赴任以来37年、工業教育一筋にお勤めになりました。先生は学生時代應援團団長として活躍されました。

◎ 消息　渡辺世子先生（工化21回）平成17年度末の人事異動により、県立西郷養護学校校長より福島県教育庁特別教育支援室長にご栄転。

◎ 消息　須藤良平先生（土木29回）平成17年度末の人事異動により、新潟県立県央工業高校教頭より同県立柏崎工業高校教頭にご栄転。

◎ 訃報　元教授（教職担当）村田邦子先生は、平成19年1月13日、73歳で御逝去されました。ご冥福をお祈り致します。教職担当として講義のみならず、一人でも多く学生の望みが達成できるように、各方面に連絡をとってくれたりと親身な御指導は、卒業生にとって忘れることができない先生でした。

校友レポート

天草四郎記念館物語

建築14回卒
株式会社レーモンド設計事務所
代表取締役　**三浦　敏伸**

私達が在籍した昭和36年～40年頃のキャンパスは、まだ古い兵舎を転用した木造校舎が殆んどであったが、そのような環境の中で工学部建築学科に世界的著名な建築家フランク・ロイド・ライト研究で第一人者である谷川正己教授の研究室で指導を頂いた。

私はそのような経緯により卒業後、フランク・ロイド・ライトの弟子であったアントニン・レーモンドが旧・帝国ホテルの設計監理業務の為にライトと共に来日し1920年（大正10年）東京・築地に設立したレーモンド建築設計事務所へ1967年に入所し、現在に至るまで40年が経過した。

我社の設計作品は、東京女子大学、南山大学（建築学会賞受賞）、立教大学、国際基督教大学、日本大学通信教育学部本館、日本大学豊山女子高等学校・中学校等の教育施設、ロシア、イスラエル、韓国、イラン、チェコ等の在日大使館、松坂屋銀座店、銀座・ヤマハホール、リーダース・ダイジェストビル（建築学会賞受賞）や東京ゴルフ倶楽部、我孫子カントリー倶楽部をはじめ百数十箇所のゴルフ場クラブハウスや北里研究所・メディカルセンター病院、聖ロカ国際病院、軽井沢・聖パウロ教会、カトリック・聖アンセルモ目黒教会、アサヒビール四国工場・ゲストハウス、大山町役場新庁舎、在カンボジア日本大使館、茨城県立つくば養護学校、水戸高等養護学校や数多くの工場、事務所ビル、住宅・マンション等多岐にわたっている。

その中にあって、私は9年間にわたり建築家アントニン・レーモンド氏より指導を受けたが、入社以来直接の師匠である田邊博司先生の設計により私が担当した作品の中で最も印象に残っている、天草四郎記念館の設計から完成に至るまでの経緯についてお話させて頂きます。

この記念館は信教の自由を求めて幕府軍と戦った天草四郎出生の地である熊本県大矢野町にNHKエンタープライズの協力を得て1990年に計画された。

その設計コンセプトを構築するに当って、キリスト教信者の天草四郎を理解するために、先ずイタリア・ミラノ市内にあるイエズス会本部の図書館を訪ね、天草四郎の記録を調査した。内容はラテン語で書かれているため、当時モスクワ大学・大学院に留学中でラテン語の解る田邊先生の長男・田邊　晋様（現在・熊本大学理学部教授）に翻訳して頂いたが、そこには天草四郎が殉教したとの語句は全く表現されていなかった。

そこで我々は、1630年代に天草四郎が三万七千人のキリシタンと共に厳しい弾圧に負けず信仰を貫き、夢の国を実現しようとして戦い（天草・島原の乱）全信徒と共に殉死したのであり聖人に叙せられるべきであるとの主旨でローマ法王庁に請願することになり、私にヨハネ・パウロⅡ世教皇様に直訴する段取りを命ぜられたのである。

その後、ローマ法王庁と約１年がかりの交渉の末、1991年10月9日に、バァチカン内ネルビー謁見場にて個別謁見が認められ、田邊博司夫妻、川上剛靖大矢野町長と共に特別謁見を果たし、その際にヨハネ・パウロⅡ世教皇様は持参した、天草四郎記念館の模型を手にとり、祝福の祈りを捧げて頂いたが、その模型は今でも私の執務室に大切に保存されている。

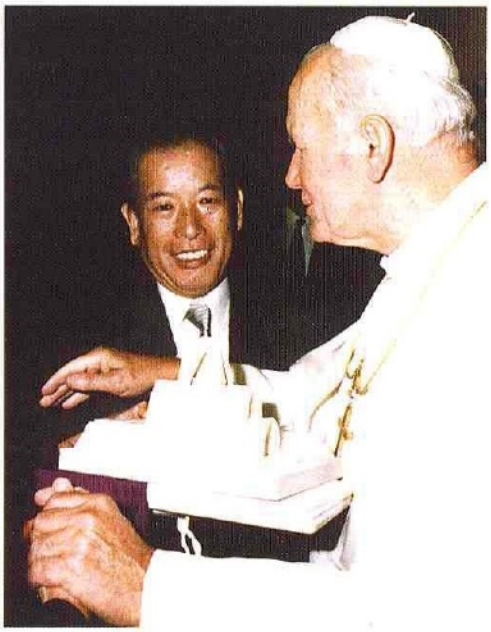
また、併せて天草・島原地方の郷土史家や大矢野町民と共に作成した天草四郎殉教の事柄を英語、ラテン語に翻訳し、ヨハネ・パウロ教皇様へローマ法王庁がその事実を理解し、承認されるよう請願書を手渡した。

しかしながら、建築家・田邊博司先生はヨハネ・パウロ教皇様と特別謁見した3ヶ月後、急な病に倒れ残念ながら天草四郎記念館の完成を見ることなく帰天され、彼の遺作となってしまった。

天草四郎記念館全景

その後、我々は祝福を頂いた模型を基に検討を重ね、聖母・マリアがベールをかぶった様子をデザインした設計図面を完成させ、1993年の秋に建物は竣工したが、現代まで生き続ける天草四郎の精神を、建物で表現しようと試みた建築家・田邊博司氏の熱き思いを今に伝えております。

私は現在、日本大学大学院　建築工学研究科の講師も拝命致しておりますが、今後も天草四郎記念館と同様に建物を設計するに当り、建築家・アントニン・レーモンド並びに田邊博司先生に学んだ情熱や理念を糧として建築を学ぶ若人に夢や希望を与える建築教育に尽力したいと存じております。



模型に祈りを捧げる
ヨハネ・パウロ２世教皇と田邊博司氏

PREFETTURA DELLA CASA PONTIFICIA

Permesso personale per partecipare all'Udienza del Santo Padre che avrà luogo in Vaticano, nell'Aula Paolo VI, mercoledì 9 ottobre 1991, alle ore 11.

Ingresso: C

№ 240

REPARTO SPECIALE

All'Aula si accede da Piazza S. Pietro - Colonnato di sinistra.
Si prega vivamente di non lasciare l'Aula
fino al termine del discorso di Sua Santità.

特別謁見当日の入場許可証

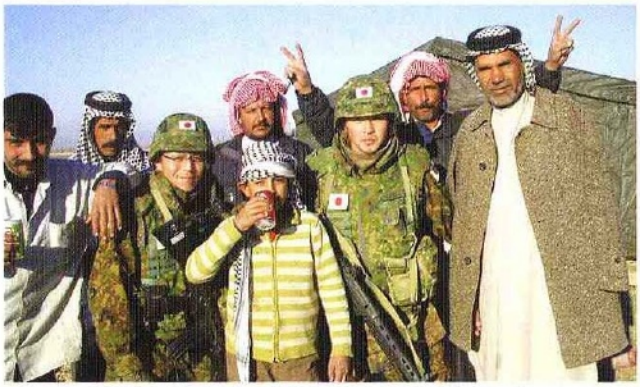
キャンパスマップ

工学部校友会事務局
電話024-944-1327

http://www.ce.nihon-u.ac.jp/kouyu

若葉マーク がんばり記

電気電子工学科51回卒　須永　則幸



筆者は右から3人目

私の初の海外旅行と飛行機初体験は、陸上自衛隊のイラク派遣でした。

私は平成16年12月～平成17年2月までの3ヶ月間、イラク復興支援群の給水隊の隊員として参加させていただきました。日本を旅立った後、約17時間かけてクウェートに到着しました。自衛隊はそこですぐにイラクに出発するのではなく、約1週間かけて射撃訓練や、中東の気候に慣れるために米軍のキャンプに入ります。キャンプと言うくらいだからたいした面積も設備もないのだろうと思っていたら、日本の駐屯地よりも大きいぐらいの広さで売店や食堂、トレーニングルームもあり、アメリカのスケールのでかさを見せつけられました。米軍のキャンプには、私たちと同じようにこれからイラクに派遣される、韓国、イタリア、フィジー等の多国籍軍が多数駐留していました。韓国兵はやっぱりキムチを大盛りに盛っていました。

訓練も終わりいよいよイラクへ旅立つときが来ました。イラクへはクウェートから約2時間かけて航空自衛隊の大型輸送機に乗って行きます。輸送機というくらいなので乗り心地は最悪でした。これからイラクに入るという緊張と輸送機の胃が浮くような揺れで何人も顔色が悪くなり誰も一言も話すことなくイラクに到着しました。

イラクへ着いてすぐに給水隊の仕事は始まりました。給水隊というのはユーフラテス川の水を陸上自衛隊の最新型の浄水車を利用して浄水し、駐屯地の隊員に飲料水や生活水を供給すること、イラクの人々に水を飲料水として交付することが任務でした。陸上自衛隊の浄水車は実に高性能で、みなさんがいつも飲んでいる水道水よりもはるかにきれいで安全な水が作れます。私達給水隊は、浄水車で浄水する組、駐屯地のあらゆる場所に水を補充しに行く組、駐屯地の外に出てイラク人のタンクローリーに直接水を交付する組、その他故障があった場合の機材等の整備する組の4つの組に分かれて、毎日ローテーションしながら活動を行なっていました。

イラクというのは昼間と夜間の気温差が激しく、日中は冬でも40度～50度になることはしょっちゅうで、夜になると5度以下まで冷え込みます。そんな日の夜中の見張りは寒さと緊張感で体はガタガタと震えは止まりませんでした。そんな中、一番恐ろしい経験といえばやっぱり砲弾が打ち込まれたときでした。仕事が終わり部屋に帰ると突然「ドドーーン！！」とすさまじい爆発音が聞こえてきたあと、「シューー！」と何かが上を通り過ぎる音がしました。何かと思ったら「伏せろーーー！！」という声が聞こえ慌てて地面にへばりつきました。駐屯地に着弾はしましたが、幸い近くに誰もいなかったことと、爆発もしなかったおかげで１人のけが人も出ることもなく済んだのでほっとしました。こういうことを書くとイラク人は日本人のことをよく思ってないんじゃないか？と思われがちですがそれは極々一部で、ほとんどのイラク人は本当に日本人に友好的で町の中を自衛隊の車が走ると老若男女問わず全員が手を振ってくれました。その風景を見て、毎日忙しくて休む暇もないけど、こんなにも人に感謝されることは今まで経験がなかったので「来てよかった」と心から感動したことを覚えています。

また私がイラクで自衛隊はやっぱりすごい！と思ったことがあります。それは日本人みんなが駐屯地で働いているイラク人労働者を上から見下ろして労働者として使うのではなく、イラク人と同じ目線で一緒に汗をかき、一緒に泥だらけなって笑いながら働いていたことです。イラクを恐れるのではなく、友好的な方法を自然にとったことで、町でイラクの人々みんなに手を振られることや、1人の死者も出さず無事に全員が任務を完遂して帰国できたことにつながったのだと思います。

日本は本当に平和です。帰国してきて心から思いました。この平和が守られているのは、「いろんな人がどこかで頑張っているから守られているんだな～」と心から感じました。そのいろんな人の中に少しでも入れるように、これからも訓練に励んでこうと思います。そしてまだやりたい仕事が決まってない人、一緒に自衛隊で日本を守りましょう！！

日本大学工学部創設六十周年記念事業資金の募集について（お願い）

各　位

謹啓　時下ますます御清祥のことと御喜び申し上げます。平素は日本大学工学部に対しまして格別の御支援を賜り深く感謝申し上げます。

さて、本学部は、昭和四年、東京神田駿河台に専門部工科として創設され、昭和二十二年に福島県郡山市に移転、その二年後に新学制により名称も第二工学部となり、昭和四十一年に現在の名称に変更し、今日まで幾多の苦難を乗り越え、平成十九年に創設六十周年を迎えることとなります。この間、日本大学建学の精神を基調として、自主創造の学風を堅持し、「人間性の涵養と学識の錬磨に努め、もって社会、人類に貢献することのできる技術者ならびに研究者を育成する」との教育理念を実践し、数多くの有為な人材を輩出し、着実に発展を遂げて参りました。これもひとえに関係各位の御理解と御支援のたまものと心から御礼申し上げます。

ところで、大学は、科学技術の進歩や社会の諸要請に呼応して、絶えず教育研究の質的向上を図るとともに、教育研究環境の改善と充実に取り組むべきことが強く求められております。しかしながら、昨今の我が国の経済事情を反映して、国の私学に対する公的助成は、競争原理の導入により従来にも増してその獲得は困難になり、教育研究の発展を支える大学の財政運営も日増しに厳しくなってきております。このような状況の中で、研究における取組では、文部科学省所管の私立大学等経常費補助金（私立大学教育研究高度化推進特別補助）である私立大学学術研究高度化推進事業の採択を受け、平成十三年度はハイテク・リサーチ・センター整備事業により「次世代工学技術研究センター」を、平成十四年度には学術フロンティア推進事業により「環境保全・共生共同研究センター」を立ち上げ整備するなど、その充実を図っております。他方、主要な教育施設である教室棟の多くは、昭和三十年代から昭和四十年代に完成し、経年老朽化が進んでいる状況であります。

そこで、本学部では、創設六十周年を契機として、より高度な教育研究環境の拡充を図るため、二十一世紀にふさわしい高度情報化社会に対応した新教室棟の建設を主たる事業として計画いたしました。この計画実現に向けて平成十五年度に設計を完了し、平成十六年に着工し平成十八年四月十五日に竣工式を行いました。

このたびの事業は、これまでになく重要で大規模なものであり、その実現に向けて教職員一致協力して努力しましたが、何分にも多額の資金を必要とし、在学生の御父母、校友の皆様をはじめ関係各位の格別の御援助を仰がなければ困難な実情にあります。

つきましては、経済情勢の厳しい時節柄誠に恐縮に存じますが、諸事情御賢察の上、皆様方の任意の御芳志により、特段の御支援と御協力を賜りますよう切にお願い申し上げます。

敬　具

平成十九年二月吉日

日本大学総長
日本大学理事長　小嶋　勝衛
日本大学工学部長　小野沢　元久

校友寄付者御芳名（敬称略）

学部学科・卒業回・寄付者氏名

専門部

土木
1 加藤 正一
1 佐久間 賢
1 佐藤 芳久
2 佐藤 勝弘

建築
1 善方 一夫

機械
1 濱崎 次郎
1 渡辺 健吉

電気
1 石川 守

工化
1 遠藤 博

第二工学部

土木
1 須郷 昭
1 武藤 忠雄
3 酒井 暁
3 根本 亮
3 平野 卓
4 久高 将栄
4 佐藤 利紀
4 田澤 大
5 佐藤 謙内
5 佐藤 司
5 矢野 清司郎
6 阿部 義光
6 立花 重行
6 西江 敬雄
6 桑野 久美雄
6 浜津 文雄
6 安田 禎輔
7 新井 保夫
7 小林 秀一
7 坂田 光文
8 谷久 嘉典
9 石川 憲昭
9 桑田 幸
10 北能 喜二郎
10 佐々木 義則
10 佐藤 照雄
10 橋本 安弘
12 岩見 力
12 成島 高偉
12 藤田 協右
13 奥原 功二
13 佐藤 武夫
13 辻口 宏紀
13 正立 克英
14 太田 洋二
14 早川 一胤
14 平野 達志
14 福井 清
14 若木 吾朗

建築
6 佐藤 満夫
7 小栗 治男
7 鈴木 重男
8 岸本 慶範
8 藤田 武
8 古橋 栄吉
9 高倉 征博
9 馬場 瑛八郎
9 堀 和一郎
10 飯島 亮
10 中村 忠通
10 橋本 寛
10 藤井 兼蔵
10 松田 浩成
11 佐藤 輝利
11 立花 佳夫
11 松本 英雄
11 矢代 捷
12 山崎 康男
12 吉田 宏
13 青木 一
13 井川 文雄
14 鈴木 隆
14 鈴木 敬二
14 中村 公一
14 円子 忠義
14 宮坂 暎彦
14 油浅 耕三

機械
2 菅野 宗和
6 薄井 義人
6 梅本 貢一
6 増山 敬芝
7 佐川 隆祥
8 野田 進一
8 安田 之彦
9 河井 宏文
9 清水 進
9 松藤 健二
11 佐々木 栄
11 篠原 裕明
11 深谷 斌
11 御代田 広喜
12 伊藤 勇雄
12 上田 勝俊
12 江指 皓司
12 梶 弥一郎
12 小山 泰
12 長瀬 健一
12 西沢 馨
12 橋本 壽
12 日向 正博
13 石原 征二
13 藏本 勇二
13 堤 一壹
13 丹羽 久夫
14 佐藤 博
14 中川 紀夫
14 福田 洋
14 宮城 皓祐
14 宮田 健児

電気
1 星 雄太郎
1 松塚 勇
5 西田 修二
6 桑田 十一
7 浅野 俊一
7 工藤 博康
7 山崎 隆司
9 阿部 孝
9 小沼 知久平
10 伊藤 岑生
10 佐川 明治
10 三瓶 義高
11 小林 次郎
11 安成 和至
12 大西 一功
12 加藤木 研
12 郡司 正孝
12 甲田 博哉
12 仁井田 昌二
13 上原 祥男
13 国分 信吾
13 坂本 忠夫
13 宮崎 勝典
14 大越 正
14 中林 紘一
14 三俣 治憲
14 三脇 康良

工化
2 後藤 尚
2 御代田 榮
4 伊藤 巌
6 石部 欽一郎
6 半沢 忠
8 善方 威夫
9 生松 進
13 清水 徹
13 渡辺 尅孝
14 北岡 保之
14 鈴木 政勝
14 関矢 隆
14 千葉 甲子
14 辻 勲
14 日比野 征男
14 八木 宏純

工学部

土木
15 小池 健彦
16 江部 勝利
16 種田 文彦
16 岡本 繁美
16 川名 寛章
16 川村 康憲
16 坂元 紀夫
16 澤田 繁
16 三瓶 英才
16 志田 宣夫
16 霜出 修司
16 高橋 一成
16 高橋 利治
16 高橋 迪夫
16 西川 和彦
16 浜田 昭博
16 六車 秀世
17 久保 和雄
17 鉗野 紀男
17 坂入 健
17 本多 一男
17 盛武 建二
17 蔭田 孝
18 池田 昭彦
18 上村 敬
18 摺出寺 三平
18 濁沼 英一
18 平野 尊治
19 川口 幸三
19 川手 正三
19 北川 義展
19 坂本 寛
19 嶋末 明
19 鈴木 廣
19 高橋 幸規
19 芳賀 敬司
19 橋本 六昭
20 諏訪部 正
20 高橋 健一
20 新田 信一
20 揮原 宏充
21 川副 英樹
21 木下 隆光
22 岩本 巌
22 鎌田 徹
22 白石 則雄
22 菅原 徹
22 三浦 元敬
23 赤堀 欣二
23 板垣 平
23 高久 毓雄
23 寺山 喜信
23 西山 勇
24 相原 茂
24 安納 正幸
24 真山 靖久
24 矢口 雄一
25 遠藤 毓雄
25 小林 正
26 安藤 和哉
26 桜本 良生
26 堤 悦郎
26 山口 弥市
27 川又 達也
28 池辺 賢明
28 片岡 隆
28 村上 一郎
29 小原 良博
30 伊藤 哲雄
30 遠藤 孝
30 佐藤 利徳
30 渡部 時裕
31 高岸 淳
31 安田 雅一
35 坂井 裕之
36 江草 将史
37 寺田 昌生
39 北原 淳
39 栗谷本 篤志
39 嶋根 裕一
39 生子 康明
39 豊田 正毅
41 大竹 昭仁
41 金澤 宏幸
41 北山 一衛
41 塩月 宏治
42 上條 光
42 成田 勝
43 寺田 昌央
44 藤木 武
44 水越 洋光
45 石井 久美子
46 中村 伯士
46 森澤 実
47 瀧 正彦
47 中山 清暁
48 宮原 崇成
49 佐藤 誠
50 小川 智右
50 吉田 俊一郎
51 野崎 良介
52 國分 秀幸
52 佐藤 剛
52 諏訪 聡史

建築
15 小野 平一
15 小幡 日出男
15 佐々木 嗣郎
15 佐藤 孝一
15 中村 鎮
16 山下 功三
17 神保 一彦
18 浦 憲親
18 大橋 隆夫
18 黒木 伸泰
18 斉藤 徳雄
18 高橋 修
18 楢山 竹彦
18 林 亨
19 菊池 義之
19 藤田 延華
20 大石 奈津代
20 大久保 隆章
20 田中 一夫
20 中川 博文
20 成田 直史
22 西島 衛治
22 松井 樹美二
22 水上 崇
23 池田 浩章
23 亀山 勝敏
23 菅野 日出喜
23 村田 松衛
24 柴垣 克彦
25 赤羽根 照雄
25 岩澤 浩二
26 菊池 洋次
27 鈴木 一則
28 大須賀 春一
28 玉井 彰一
31 浅里 和茂
32 前田 俊一
33 安東 敬真
33 吉澤 長武
38 武井 忠士
42 三澤 寛徑
43 鏑木 剛
43 田島 淑充
48 石井 健太郎
49 高橋 忍
50 三本木 雅宏
52 神山 知則
52 木村 友明
52 平澤 敬

機械
15 石灰 三郎
15 菅野 慥教
15 熊谷 芳耿
16 赤松 達雄
16 稲垣 昭彦
16 村岡 和重
16 和田 正哉
17 渡辺 文好
18 鎌田 浩
18 二木 好文
19 唐木 哲芳
19 河村 博祥
19 関井 義治
19 田井 真一
19 富田 正
19 待鳥 孝志
20 中野 哲広
21 阿部 寿一
21 江崎 隆志
21 島山 繁雄
22 辻 勝英
22 出貝 正通
22 名川 彰
22 久岡 正志
23 益子 愼治
25 酒井 正
25 渡辺 隆
27 榊原 俊次
27 佐藤 新寿
27 原田 哲朗
27 守屋 徳衛
27 與三本 毅
31 小笠原 文規
32 坂田 匠
32 浜尾 光吉
32 八重田 淳
33 本田 篤彦
34 小林 克人
34 真和 潔
34 松本 央
35 金子 康夫
36 岡部 宏
38 唐澤 幸司
39 高橋 誠
42 木川田 和利
42 久保田 晃宜
42 田中 輝
49 下竹 悠史
49 松川 泰教
50 沢木 克友
51 北見 賢一
51 木幡 安廣
51 齋藤 大介
52 木村 俊介
52 堀地 一久

電気
16 伊藤 義人
17 北山 貞行
18 石井 敏夫
18 大芝 智
18 鈴木 秀寿
19 嶋 啓司
20 谷山 豊
20 中島 久明
20 西村 克己
22 大橋 猛
22 小河 秀夫
22 小松 憲一
22 水野 浩次
23 近藤 明夫
23 松本 修
23 矢野目 登
24 斎藤 利勝
25 神永 卓
25 佐久間 直勝
26 三浦 義彦
27 池山 文敏
27 一戸 隆文
27 高野 博光
27 松本 朗
32 中嶋 智
33 垣本 正博
34 赤澤 伸明
34 甲斐 成人
34 高橋 聡
34 玉木 直人
35 清田 有亮
37 渡辺 憲雄
38 澤田 篤実
41 坂田 芳紀
43 関根 良仁
47 小田原 宏樹
48 下重 政彦
48 渡邊 正幸
49 丸山 真吾

電気電子
50 佐藤 守
50 寺門 達弘
50 長林 啓
51 澤山 直充
51 松田 直樹
52 矢島 敏邦
52 和田 隆一

工化
15 角 健
16 山口 光濟
18 鳥海 健次郎
18 吉住 映生
19 堀田 和生
22 国吉 順一
24 松崎 高明
26 阿部 千代治
26 橋本 芳正
28 笠原 孝行
28 鷹觜 義哲
28 矢吹 利弘
30 高梨 功司
30 夛田 慎哉
32 中塚 芳二
33 佐藤 紀夫
35 石橋 智
36 佐藤 正道
38 鈴木 康一朗
39 大塚 英男
39 縄 政彰
40 角田 栄
44 岡田 弘美
47 橋本 雅文
49 小林 司
50 杉原 彰夫
51 中島 晴彦

物質化学
52 菅野 貴志
52 佐藤 雅美
52 山田 得真

情報
3 廣瀬 仁亮
6 佐藤 雅彦
7 中村 誠次
7 丸山 零士
8 荻野 浩良
8 北川 俊広
8 郡司 真言
8 谷 祐希
8 中込 順也

校友短信

土木工学

●4回卒　松田　光司
卒業後50年を経てもいまだに当時の様子が目に浮かびます。今日の工学部の発展を大変嬉しく思っております。大学関係者のご努力に敬意を表します。今回の母校訪問楽しみにしております。

●4回卒　矢吹　弘
阪神大災害に遭い豊中の住まい付近は断層があり、定年になったので生まれ故郷に帰ってきております。現在は老人会及びゲートボールで多忙です。

●4回卒　福田　剛
工学部の益々の発展、喜ばしい次第です。なお、宜しくお願いします。

●14回卒　大町　武司
母校のますますの発展を祈念いたします。

●14回卒　高嶋　宏明
昨年出張で郡山市に2泊し、レンタカーで学校にも行き、とても懐かしくおもいました。

●14回卒　長谷川　清廣
卒業40年、母校を訪ねる会へのお誘いありがとうございます。風雪苦楽40年ですが今回同期と会いエネルギーを充電し明るいゴールを目指したいと思います。

●14回卒　平本　元
広島県庁を退職し、現在五洋建設中国支店に勤務しております。皆様によろしくお伝えください。

●34回卒　川田　幸尚
工学部を卒業して早20年が過ぎようとしていると思うと年齢を感じます。現在、郡山市内の芳賀小学校に勤務しています。同じ市内なのですがなかなか行く機会がなかったので楽しみにしています。

建築学

●14回卒　橋口　章
卒業後20～30年と同窓会を開催し今回も40周年の同窓会を10月21日に開催します。

●14回卒　赤石　達也
皆様にお会いできることを楽しみにしております。

●14回卒　野口　和男
日東建設を定年退職後、郡山に似た南信州飯田市でアパート管理の仕事をしています。40年ぶりの母校の姿と、同期の皆に会えることを楽しみにしています。

●14回卒　石岡　宏康
40年ぶりの母校、どのように変わったか見るのが楽しみです。

●14回卒　鈴木　敬二
昭和43年来の郡山です。楽しみにしています。

●14回卒　金子　有英
訪ねる会の案内ありがとうございます。前回出席の予定が妻の急病で行けなかったので今回こそ参加し皆さんとの出会いを楽しみにしています。

●14回卒　沢田　達孝
40年ぶりの日大訪問となります。友人達との会合楽しみですが、ボケていないか私を含めて心配です。

●14回卒　山下　栄一
校友会に携わっている方に感謝しております。あっという間の40年でした。先日建築の同級生と打合会がありましたが、氏名のわからない方が二名ほどありました。

●14回卒　朝田　昭造
ワンダーフォーゲル部に会いたいです。

●14回卒　大塚　岩雄
静岡市は政令指定都市となり未来に向かって歩んでおります。平成14年3月に静岡市を退職し、現在（財）静岡県総合管理公社に勤務しております。皆様に宜しくお伝えください。

●14回卒　金山　隆一
皆様のご活躍とご健康をお祈りいたします。

●14回卒　萩本　暁
今年の4月上旬に東京で三協アルミフォーラムがあり、その折卒業以来始めて母校を訪ねました。我々の時代よりすっかり大学や郡山の町並みも変わっており時代の流れを感じた次第です。

●14回卒　鈴木　隆
1ヶ月で定年予定です。皆様に宜しくお伝えください。

●14回卒　松下鉄雄
60才定年後、第2の職場を得て働いています。

●14回卒　佐藤　隆
皆様の御健勝を祈ります。当方ぼちぼちやっています。

●14回卒　高橋　秀一
7年前結婚30周年、夫婦で訪ねました。下宿も訪ね久しぶりにいろいろお話をしました。定年後、設計事務所へ勤めてます。

●14回卒　鈴木　善治
退職後も工業高校に常勤講師として勤めています。

●14回卒　島田　喜男
仕事を続けることが人生の喜びと思い、苦楽を楽しんでいます。

●14回卒　三浦　敏伸
現在、母校工学部大学院の講師を拝命し、院生に夢を与える講義を致しております。また、創業86年のレーモンド設計事務所の代表取締役を務め、努力を重ねております。

●14回卒　吉原　俊雄
現在の母校発展の様子を目で見、肌で感じてみたいと思う。

●14回卒　狩野　幸司
大学がより一層発展されることを大いに期待しています。

●24回卒　矢崎　武
息子が今年建築を卒業し、社会人になり日々頑張っております。私も20数年ぶりに郡山に行き、変わったのに驚きました。

●24回卒　花田　善廣
小さな事務所ゆえ、未だに私も頑張って残業をしております。

●24回卒　中村　宏樹
卒業して早いもので30年を迎え、感慨もひとしおであります。一時過去にタイムスリップして、心身共に充電させたいと思います。

●27回卒　瀧口　繁（第10代少林寺拳法部）
建設業界は、耐震偽装でゆれていますが、学生時代に学んだ、新鮮な気持ちが、会報を見て思い出されます。
昨年の校友会報の表紙を見て、正門の桜の花が印象的でした。授業終了後の正門前での部活動。先輩が怖くて、必死になって部活動をしたのを思い出しました。胃がいたみ、食事が取れず、肉まんを食べて道場に行ったことが、昨日の事の様に、脳裏に浮かびます

●30・32回卒　増田　豊文・学身
建築科の先輩・後輩として、今も二人三脚です。夫婦それぞれに、同じキャンパス内の大学と専門学校で教壇に立っています。母校に負けない学生を送り出したいです。

機械工学

●14回卒　犬飼　宏
お陰様で元気でやっております。

●14回卒　佐藤　博
卒業して40年、みんなに会いたかったなあ。私は当時学生委員会に所属し初代放送部長に就任し、一番の思い出は「第二」の呼称を外すべく本校に交渉し「工学部」に変更したことです。

●14回卒　山本　博記
皆様の御多幸と御健勝をお祈りいたします。

●14回卒　宮田　健児
19年前の第6回母校を訪ねる会以来の参加になります。また、去年は有志同級会と合わせ大変お世話になりました。有意義な機会に巡り会いありがたく思っております。

●14回卒　相川　隆之
本年6月に40年間勤めた会社を退職しました。今は第二の人生を勉強中です。皆様に宜しく。

●14回卒　佐藤元基
久し振りに皆様方とお会いできることを楽しみにしております。
●14回卒　古橋　保
初秋の候ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。この度、母校を訪ねる会の案内をいただき、心から感謝をしております
●14回卒　石川　雅彦
仕事も終りボランティア、趣味の方で忙しく過ごしております。
●14回卒　中川　紀夫
卒業して40年なりますが、一度（昭和45年頃）母校を訪ねましたが、その後訪ねてません。ずいぶん変わったでしょうね。
●14回卒　山田　哲司
母校訪問するのは20年前に個人的にした以来で、その時は学校が休校日でしたので学生の姿は見えませんでした。学舎研究棟等が整備された様をみて驚きと同時に卒業生として嬉しく思いました。そして今度20年後に訪ねる機会ができたので、更なる変貌振りを拝見できることを楽しみにしています。
●14回卒　川瀬　紘一
何十年ぶりの母校の地を訪ねられる事を感謝します。懐かしさでいっぱいです。
●24回卒　美入　昌男
卒業して31年目となり時の流れを早く感じられます。母校が益々発展している姿に喜びをかんじています。
●24回卒　関根　洋一
現在スペイン在住
●24回卒　穂積　隆宏
御盛況をお祈り申し上げます。皆様のご健康お祈り申し上げます。
●24回卒　功刀　賢一
久しぶりの郡山です。楽しみにしております。
●34回卒　戸澤　直哉
早いもので卒業してから20年あまりが過ぎました。写真で見ますと建物も変わり雰囲気が違いますね。当時のことも懐かしく思います。いずれは母校を訪ねてみたいと考えております。
●34回卒　片寄　朗
郡山を離れて早くも20年が過ぎました。その時の事が昨日のように思い出されます。現在ボランティアでボーイスカウトの活動をしてます。

電気工学

●4回卒　宗像　大三路
7/28に喜寿を迎え元気に過ごしています。
●4回卒　中野　榮一
第二工学部電気工学科で庄司先生に船舶工学全般を学び卒業以来40年間40トンから500トンの船の建造修繕業務のトップ。今元気に次世代の船研究に携わっています。第二工学部に感謝。
●4回卒　桒名　茂司
本年9月に関連学会から食品保存流通ハンドブックが発刊され、一部担当させられました。学会で役員をしておりますので、若い人々の成長期待しています。
●4回卒　山口　文人
年齢なりに元気です。
●4回卒　山岸　利正
趣味を楽しみながら元気に過ごしております。
●4回卒　吉田　正博
皆さんに宜しくお伝えください。母校の発展をお祈りいたします。
●4回卒　中野　平
車窓から見ました。校門から入りたいのですがなかなか希望がかないません。老いても元気でいます。
●14回卒　金子　規彦
昨年退職し年金生活に入りました。貴校のますますの発展を祈念いたします。
●14回卒　伊藤　宜世
校友会事務局の皆様ご苦労様です。旧友の方たちに逢えるのを楽しみにしています。
●14回卒　角田　正宏
技術士事務所を開設しました。「角田技術士事務所」（電気電子部門）
●14回卒　小菅　眞幸
現在小学校の非常勤講師として働いております。母校のますますの御発展を祈念いたします。
●14回卒　車田　実
毎日が暑く大変ですが皆様には変わりなくお元気ですか。
●14回卒　稲葉　洋和
電気工事会社を退職し、現在は設備設計事務所をやっています皆様に宜しくお伝えください。
●14回卒　渡邊　高
卒業後40年が過ぎ母校の発展を目にし驚くものと思います。
●24回卒　古村　純一
母校のますますの発展を期待いたします。
●24回卒　安田　彰宏
母校の今後の一層の発展を願っております。
●24回卒　加藤　昭司
國分欽智先生の瑞宝中綬章受章おめでとうございます。マイクロ派工学をお教えいただきました。学生時代を思いだします。先生の誠実さが今心に残り生きています。私は現在ME機器メーカーで主にサービスを担当しております。医用テレメータ分野では先生方のお教えが役立っております。諸先生同窓会にお会いしたいですが都合つきません。申し訳ございません。
●34回卒　遠藤　伸一
母校の更なる御発展を祈念いたします。
●34回卒　赤澤　和則
尾股先生はご息災でいらっしゃいますでしょうか。
●34回卒　斉藤　儀織
久し振りの母校楽しみにしています。
●34回卒　高田　節夫
昭和61年卒業後地元静岡に就職し現在に至っております。思い出されるのはGW、正門から桜並木のあの美しい光景。いまでも脳裏に焼き付いております。
●34回卒　山田　雅彦
市内におりながら久しぶりの工学部。新しく整備されたキャンパスを楽しみに拝見させて頂きます。
●34回卒　福島　真悟
次回の母校を訪ねる会の開催を楽しみにしています。

工業化学

●14回卒　新村　克夫
小野沢先生にもお会いしたいのですが…。水泳部です。いまだに働かされております。
●14回卒　関矢　隆
母校の発展を目の当たりにできることを楽しみにしております。
●14回卒　中塚　義明
定年退職後、囲碁、テニスを楽しんでいます。
●14回卒　持田　正雄
40年もたった感じはあまりないのですが現実は確かで実に多くの想いが交錯しています。元気に皆に会えることを幸福に感じています。
●14回卒　辻　勲
先日まで中国（広州）へ行っておりました。元気でやっております、と皆様にお伝えください。
●14回卒　鈴木　昌文
卒業後石油プラントメーカーで18年、その後日本赤十字社で22年勤め昨年退職後、非常勤嘱託として1年、現在は自治会にあけくれています。来年は管理組合をしなければ。もう少し暇になれば是非郡山にも行くつもりです。
●24回卒　大橋　富美夫
卒業して30年、当時の面影もないほど変わりましたが皆もどのように変わっているのか楽しみです。

日本大学工学部校友会員各位

平成19年3月1日
校友会会長　加藤木　研

平成19年度 通常総会通知

本会会則第14条により、日本大学工学部校友会平成19年度通常総会を下記の通り開催いたします。皆様には年度始めにあたりご多忙中とは存じますが、先輩・後輩お互いにお誘い合わせの上、多数ご出席くださいますよう、ご通知申し上げます。

記

1. 日　時／平成19年4月21日(土)14時より
2. 場　所／日本大学会館（市ヶ谷）
3. 議　題／（1）平成18年度会務報告および決算報告
   （2）平成19年度事業計画および予算審議
   （3）その他
4. 懇親会／総会終了後、大学関係者を迎えて懇親会を開催。

第27回 母校を訪ねる会

日　時／平成19年10月28日(予定)
場　所／日本大学工学部　50周年記念館
　　(ハットNE)を予定
対　象／第5回卒業生（昭和32年3月卒業）
　　第15回卒業生（昭和42年3月卒業）
　　第25回卒業生（昭和52年3月卒業）
　　第35回卒業生（昭和62年3月卒業）

今回は左記の卒業生が母校訪問の主たる対象となりますが、対象年度に関わらず、ご来校ください。大きく発展・成長した母校をご覧いただき、恩師や旧友との再会に懐かしい一時をお過ごしください。この日は第57回北桜祭開催中です。

なお、クラス会を予定されている幹事の方は校友会にご一報頂ければ幸いです。

校友会報 第70号

発　行　者　日本大学工学部校友会
福島県郡山市田村町徳定字中河原1
郵便番号　963-1165
電話番号　024-944-1327
FAX番号　024-944-1327
E-mail : info@kouyu.ce.nihon-u.ac.jp
URL : http://www.ce.nihon-u.ac.jp/kouyu
発行部数　48,000部
発　行　日　平成19年3月1日
発行責任者　校友会会長　加藤木 研
編集責任者　編集委員長　長澤 幸二